

N K H

長岡市立科学博物館報

No. 53 1988



特集：長岡の土偶

N K H



貯蔵穴内の土偶発見状況（岩野原）



石の下になって発見の土偶（岩野原）

表紙の土偶について

土偶の頭の観察から、縄文人の髪形に島田やヒツツモトドリなど、様々な形があることが分かってきました（尾関清子「縄文時代における結髪の特徴」生活学第十三冊 日本生活学会 1988年）。この土偶もうしろ頭に帯状の盛り上がりがあり、髪を「横島田」に結っていたのではないかと思われます。また、頭には左から右に流れるようなヘラ描きの線があります。分髪を表しているのでしょうか。

なお、この土偶は目のくぼみ、筋の通った鼻、2孔一対の鼻や耳の孔など、縄文人の顔がリアルに表現されています。 藤橋遺跡出土。縄文時代後期。高さ 8.6 cm。

53号
特集：長岡の土偶

1988年3月

長岡の土偶

～最近の出土品～

駒形敏朗

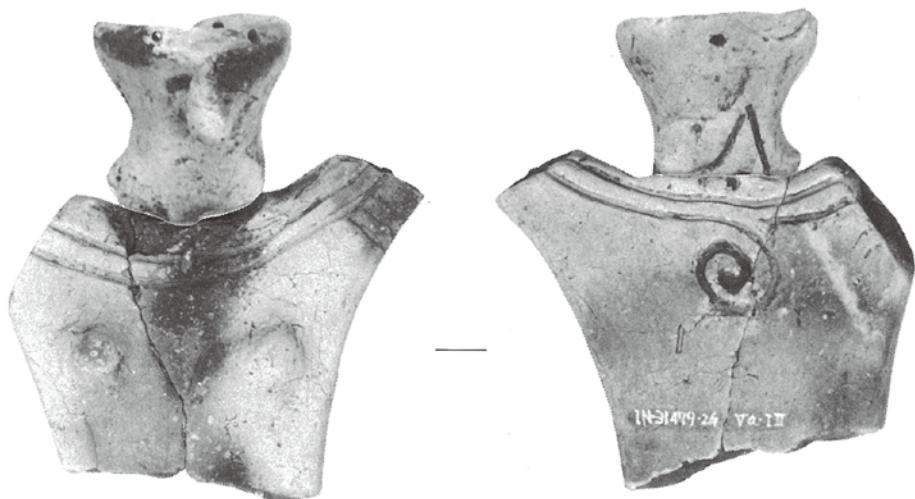
はじめに

土偶（どぐう）とはなんでしょうか？人とおなじ顔や体つきをしているが、いったい何に使ったのだろうか？こんな疑問を皆さんと一緒に、土偶を観察しながら考えていきたいと思い、長岡の土偶を集めました。

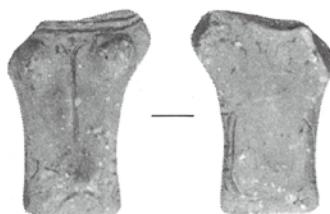
火焔土器の馬高遺跡からもたくさんの土偶が出土していますが、紙面の都合で最近の発掘調査（岩野原遺跡・藤橋遺跡）で出土したものに限りました。岩野原遺跡（深沢町）は164基の住居跡と土器捨て場（ゴミ捨て場）などが発見された縄文時代中・後期の集落跡で、中期の集落は台地の先端部に、後期はやや奥まったところにありました。藤橋遺跡（西津町）はヒスイの首飾りなどを出土した縄文時代後期から晩期の集落跡で、国の「史跡」に指定されています。

なお、土偶の掲載写真のサイズは、実物の約1/2です（P9上=表紙の土偶を除く）。また、一で結ばれている写真の土偶は左が正面、右が背面、|の上は頭頂部、下が正面です。

（表紙デザイン 本間正三）



岩野原の土偶(1)
(縄文中期)





土偶の顔

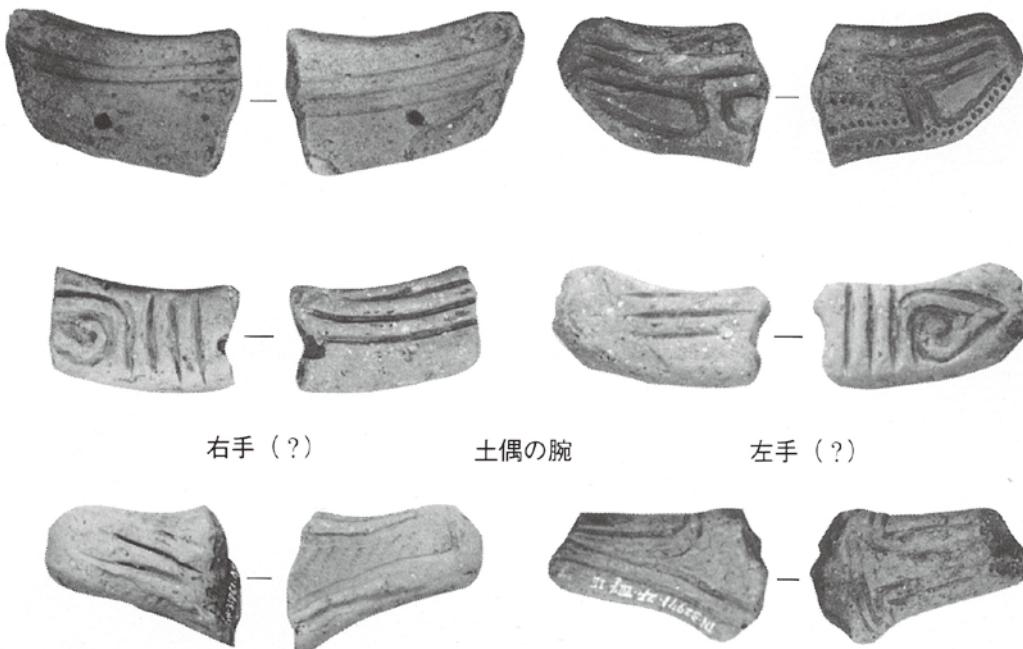
土偶は男か女か

土偶の胸に粘土を張り付けて「乳房」を表す場合が多いことから、土偶は女性を型どったものであることは容易に理解されましょう。今のところ、男性を表現した土偶は発見されていないようです（江坂輝弥校訂・小野美代子著「土偶の知識」1984年）。

さらに、土偶には腹を大きく膨らませて、妊娠した女性を表していることがあります。また、体の中央に縦線が入っている場合もあります。この線は「妊娠線」と考えられるもので、腹が膨らんでいなくとも妊娠の状態を表しているものと思われます。



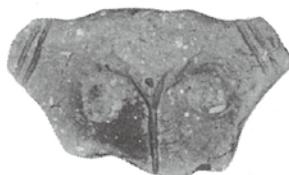
土偶の頭



土偶は女神か

土偶が女性を表し、しかも妊娠した女性が多いということは、土偶は「女神」を表したのでしょうか。

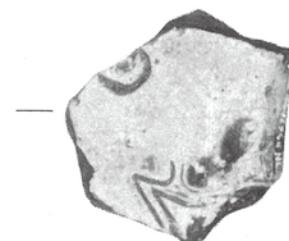
女性は子供という生命体を生むことができます。これは男性にはできないことです。現代人でもそうですが、モノを生産することを知らない縄文人にとっては生命を生むことは、とても神秘的なことに思えたでしょう。このことから、土偶は山の幸（木ノ実・獣など）や川の幸（魚など）に恵まれるよう、祈る対象だったこともあるでしょう。また、乳幼児の死亡率が高い縄文時代にあって、安産や再生を祈る「護符」だったかも知れません。



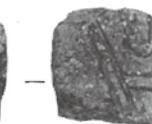
中期の土偶

土偶は縄文時代早期から作られ始め、中期になると地域ごとの違いが目立ってきます。火焔型土器が分布する信濃川中流域では、体が平たい「板状土偶」が多く作られています。板状土偶は両手を大きく広げ、足を表現しないのが特徴の一つです。乳房は粘土を張り付けて表現しています。

岩野原の土偶は丸顔 (P 3 上の中) や顔面を省略したもの (P 3 右下 2 点) もありますが、逆三角形でやや面長の顔が一般的です。何れの顔も、頭のヘリには小さな孔が数個あけられていることが多いです。



右胸



左脇腹

右脇腹

右脇腹



右腰



左腰

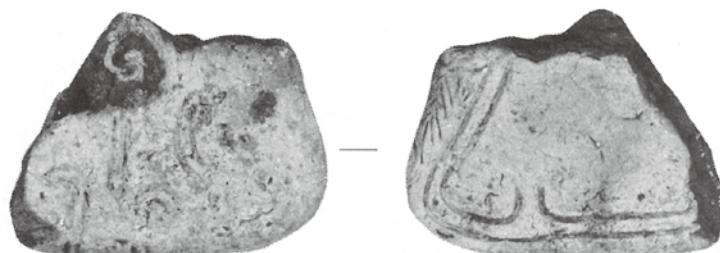
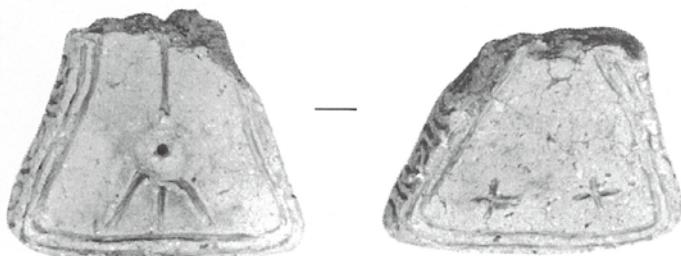


土偶の発見場所

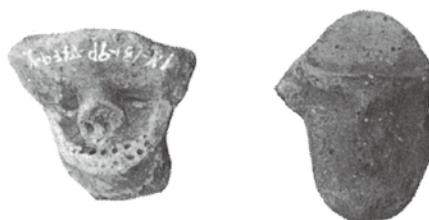
土偶が祈りの対象であれば、土偶は特別の施設に納められていることが多いのでは、と考えられます。

栃尾市栃倉遺跡（縄文中期）では住居跡のピット内で倒立した土偶を朱塗りの土器で囲ったり、やはり住居の床において朱塗りの台石の上、それに住居内で小形土器と並んだうつ伏せの例（寺村光晴はか「栃倉」栃尾市教育委員会 1961年）があります。そのほかにも石匂いや土器の中など特殊な状態で発見されることがあります。

このように土偶が信仰の対象として特別な施設に祭られることもありますが、そのような例は少ないようです。



土偶の腹



岩野原の土偶(2)
(縄文後期)



土偶は「ひとがた」か

土偶は特別な施設で、完全な形のものよりは、手足が取れた状態で土器や石器と一緒にになっている場合が圧倒的に多いです。岩野原の中期土偶の 74.4 % は土器捨て場で、壊れた土器等に混じって体や手足が発見されました。

このようなところから、足を傷つけた場合は土偶の足を、手をけがした時は手を折って、早くけがや病気が治ることを祈った身代りとしての役割が考えられています。

だが、土偶は自然に壊れたという指摘や、手足や顔を表現していない土偶があることから、全部の土偶に身代り説は当てはまらない、とも言われています。



後・晚期の土偶

岩野原の中期土偶は足なしでしたが、後期には2本の足を持つようになりました。この傾向は岩野原以外の多くの土偶にも見られ、さらに、東北や関東では様々な形の土偶が作られるようになりました。顔がハート形のハート土偶、ミミズクに似ているミミズク土偶や立ち膝(そん居姿勢)の土偶などがあります。

後期にはエスキモーの雪メガネをかけたと思われる遮光器土偶もあり、また、頭や手足が抽象的表現の小形土偶も作られています。藤橋の小形土偶もこの仲間です。

しかし、後・晚期には土偶は少なくなってきました。

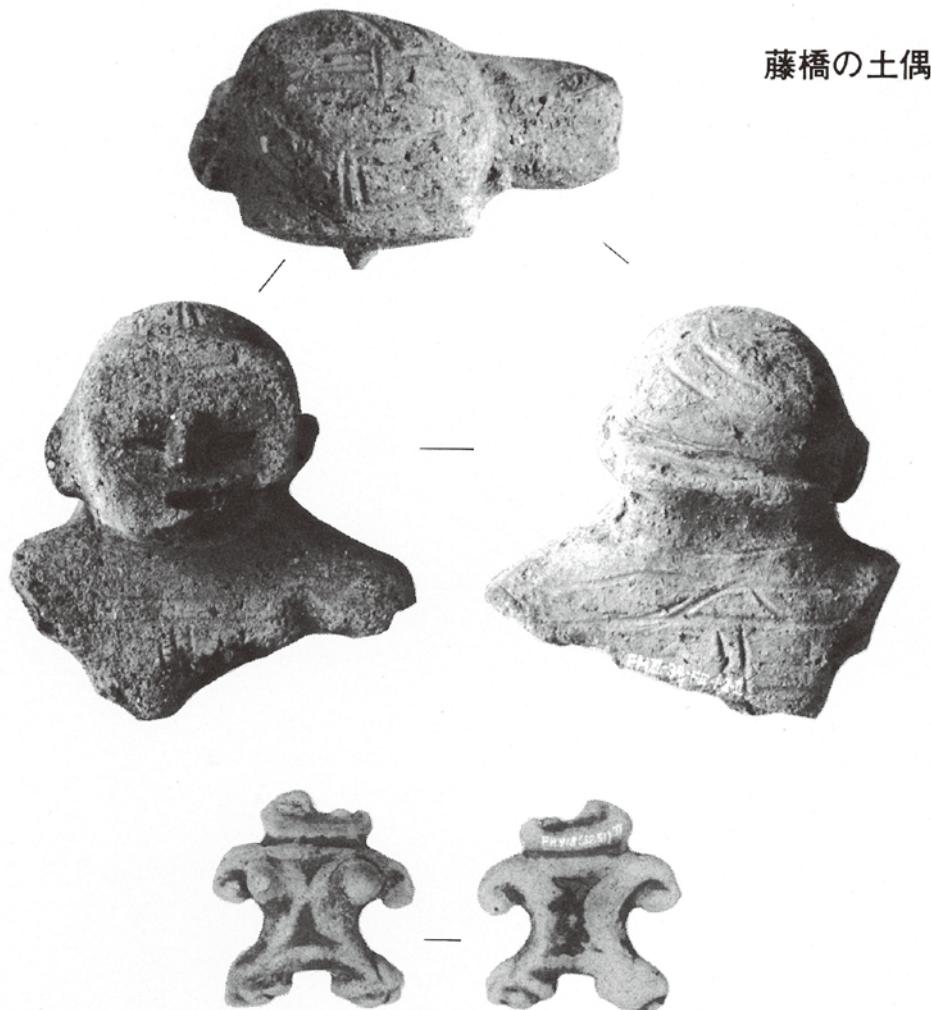
右手 (?)

胸と左手

腰

左足 (?)

右足 (?)



土偶からのメッセージ

土偶からの情報は、これまでのほかにも顔にイレズミ (P.3) をしたらしいこと、腰にミノ (P.7 左中・P.8 中段 2 点) を巻いていたらしいこと、などがあります。そん居姿勢の土偶は縄文人の足の骨の研究から、縄文人の姿勢を伝えるものであると言われています。

様々なことを私たちに伝える土偶は、食糧を自らの手で作ることを知らない縄文人たちが、厳しい自然と対決していく生活の中で生み出したものです。そして、土偶に豊かな恵みや病気の治癒を祈ったのでしょうか。どこか、現代の私たちにも通じるような気がします。



右足

昭和62年度事業報告

資料収集・調査

〔地学研究室〕

- 地質調査 小千谷市：7月，8月
- 研究協議 東京都：3月
新潟市：4月，7月（2回），10月，
3月
小千谷市：7月

〔植物研究室〕

- 植物分布調査 南魚沼郡六日町：4月
北魚沼郡小出町：5月
中魚沼郡津南町：6月
新潟市：6月
栃尾市：7月
中頸城郡妙高高原町：8月
- 研究協議 新潟市：4月，12月，2月，3月
三島郡越路町：12月

〔昆虫研究室〕

- 昆虫分布調査 南魚沼郡湯沢町：5月，6月（2回），
7月，8月
北魚沼郡湯之谷村：6月
栃尾市：6月
北蒲原郡黒川村：8月
中頸城郡妙高高原町：9月
糸魚川市：10月
北魚沼郡守門村：10月

〔動物研究室〕

- 鳥類分布調査 新潟市：5月（2回）
北魚沼郡守門村：10月
三島郡寺泊町：12月

〔歴史民俗研究室〕

- 民俗調査 中頸城郡柿崎町：5月
南魚沼郡六日町：7月
三島郡越路町：8月（2回），3月
十日町市：8月
小千谷市：3月（2回）

〔考古研究室〕

- 遺跡分布調査 南蒲原郡下田村：6月
◦ 研究協議 新潟市：7月（2回）

学会・研修会・協議会

- 新潟県博物館協議会役員会 4月23日，新潟市（参加：
鈴木館長）
- 新潟県博物館協議会総会 4月23日，新潟市（参加：
鈴木館長）

鈴木館長

- 新潟県民俗学会年会 5月24日，柏崎市（参加：鈴木
館長）
- 新潟県博物館協議会運営研究会 6月3・4日，柏崎
市（参加：鈴木館長，今井係長）
- 第29回北信越博物館協議会総会 7月10・11日，福井
市（参加：鈴木館長）
- 日本鳥学会大会 9月4～6日，甲府市（参加：渡辺
主査）
- 新潟県民俗学会役員会 8月29日，新潟市（参加：鈴
木館長）
- 日本民俗学会第39回年会 10月3・4日，東京都（參
加：鈴木館長）
- 新潟県博物館協議会学芸員等職員研修会 10月13・14
日，中蒲原郡横越村（参加：鈴木館長，今井係長）
- 第5回日本海文化を考える富山シンポジウム 10月17・
18日，富山市（参加：駒形主任）
- 日本鞘翅目学会第11回大会 11月8日，東京都（參
加：山屋学芸員）
- 新潟県民俗学会役員会 2月20日，新潟市（参加：鈴
木館長）
- 昭和62年度生態学講座 3月15日，東京都（参加：西
山館長補佐）
- 新潟県博物館協議会役員会 3月23日，新潟市（參
加：鈴木館長）

普及活動

- 地層をしらべる会
4月26日，悠久山，參加者6人。6月28日，桑探峯，
參加者12人。9月27日，真木林道，參加者11人。10月
18日，滝谷町，參加者6人。
- 河原の石をしらべる会
7月26日，渋海川，講師：小千谷市立片貝小学校教諭
阿部泰弘先生，參加者14人。
- 春の植物を観察する会
5月10日，蓬平町，講師：植物研究家 坪谷富男先生，
參加者23人。
- 初夏の植物を観察する会
7月5日，東山ファミリーランド，參加者17人。
- 親子の夏の植物観察会
7月26日，柿町白山神社周辺，講師：新潟市立高志高
等学校教諭 牧野恭次先生，參加者30人。
- キノコをしらべる会
10月18日，長岡ニュータウン周辺，講師：長岡技術科
学大学助教授 宮内信之助先生，參加者53人。

◦ 雪国植物の越冬を観察する会

11月15日，長岡ニュータウン周辺，参加者12人。3月27日，長岡ニュータウン周辺，参加者17人。

◦ 昆虫相をしらべる会

調査地：亀崎町周辺（10月は悠久山）

講師：長岡市理科教育センター専任所員 遠山富士雄先生（4月），昆虫研究家 樋熊清治先生（5月，7月，8月）

4月19日，参加者22人。5月17日，参加者32人。7月29日，参加者37人。8月8日，参加者26人。9月20日，参加者17人。10月25日，参加者5人。

◦ 野鳥相をしらべる会

調査地：信濃川（長岡大橋周辺）

4月26日，参加者19人。5月24日，参加者21人。6月28日，参加者32人。7月26日，参加者16人。8月23日，参加者23人。9月27日，参加者15人。10月25日，参加者18人。11月22日，参加者11人。

◦ 野鳥集会と探鳥会

5月30・31日，八方台休暇センター及びその周辺，参加者延41人。

◦ 大河津分水探鳥会

10月18日，大河津分水周辺，参加者13人。

◦ 悅久山探鳥会

11月15日，悠久山～百間堤，参加者16人。

◦ 冬鳥さよなら探鳥会

3月20日，信濃川右岸（長生橋上流），講師：長岡野鳥の会 古川英夫先生，参加者30人。

◦ 昆虫標本の名前を調べる会

8月26・27日，科学博物館学習室

◦ 植物標本の名前を調べる会

8月28日，科学博物館学習室

◦ 第36回生物標本展示会・第29回自然科学写真展示会

10月6日～11日，会場：中央公民館大ホール，出品者数350人，出品点数9,703点，入場者延1,722人。

◦ 第24回県内小・中・高校生生物研究発表会

10月10日，会場：中央公民館401教室，発表：小学生の部11題・高校生の部4題，入場者延103人。

◦ 科学博物館講演会

11月14日，会場：中央公民館401教室，演題：害虫と農薬，講師：新潟県農業試験場環境科長 江村一雄先生。昆虫研究室の報告：長岡市のカミキリムシ，学芸員 山屋茂人。入場者37人。

出版物

◦ 館報（N K H）

• 52号 生物研究発表会特集 700部

• 53号 特集 長岡の土偶 700部

◦ 博物館研究報告 第23号 500部

<自然系>

特集：柿川の自然環境調査

• 総 論 西山邦夫
• 柿川上流域およびその周辺の地質 新潟平野東縁団研

• 柿川上流域に分布する鮮新－更新統の古地磁気 加藤正明

• 新潟県長岡市柿川の植物 西山邦夫
• 長岡市柿川流域の昆虫相 山屋茂人

• 長岡市柿川上流域 8月の蛾類 中野潔・杉山徹朗
• 淡水産貝類をもとにした柿川の水質について 村山 均

• 水生動物からみた柿川の汚染 山屋茂人
• 長岡市柿川における魚類の分布 遠山富士雄

• 柿川における鳥類の分布と季節的変化 渡辺 央
<人文系>

• 新潟県における縄文早期・前期の基礎的研究(5) 駒形敏朗・小熊博史

• 長岡市六日市町の古代・中世遺跡 駒形敏朗・小熊博史

• 蔵王大祭 鈴木昭英

総合博物館建設のための調査事業

◦ 先進博物館視察

• 9月30日～10月1日，平塚市博物館，横須賀市自然人文博物館，府中市博物館，パルテノン多摩

• 10月15日，長野市立博物館
• 10月20日～10月21日，しもつけ風土記の丘資料館，

栃木県立博物館，群馬県立自然科学資料館，群馬県立歴史博物館

• 10月23日，十日町市博物館，柏崎市立博物館

• 10月27日，福島県立博物館

• 10月29日，新潟市郷土資料館，豊栄市博物館

• 3月25日，埼玉県立博物館

◦ 総合博物館建設にむけての庁内懇談会

2月18日，長岡市役所5階教育委員会会議室

講師：財団法人日本博物館協会

専務理事 毛利 正夫先生

主な資料寄贈（敬称略）

○鳥類資料

アカシヨウビン 1点 見附市新潟町 小林淳一

○民俗資料

白無垢装束など 5点 長岡市表町4 草間節子

山袖無など	6点	長岡市大積三島谷町	山田セツ
股引など	9点	"	長谷川ヨシ
雪下駄など	15点	長岡市才津町	吉田美代
儀しめ機など	71点	"	江口久昭
竜吐水など	30点	長岡市乙吉町	武樋朋次

昭和62年度月別入館者数

月別	個 人		團 体		資料観会			計	
	大 人	子 供	團体数	大 人	團体数	子 供	大 人	子 供	
62. 4	438	322	2	38	24	2,050	19	2	2,869
5	491	230	2	43	43	3,959	51	1	4,775
6	343	204	5	100	7	466	46	6	1,165
7	328	310	6	91	1	198	41	2	970
8	753	670	4	111	1	28	38	14	1,674
9	363	254	4	95	2	27	45	2	786
10	571	439	2	31	6	736	123	2	1,902
11	376	196	5	113	1	19	69	—	773
12	187	171	—	—	3	27	19	—	404
63. 1	228	106	—	—	—	—	31	—	365
2	272	67	1	16	1	20	26	—	401
3	335	237	1	58	—	—	32	—	662
計	4,685	3,206	32	696	89	7,530	600	29	16,746

〈あとがき〉

いかがでしたか、土偶を通して縄文人たちの生活の匂いをかぎ取っていただけたでしょうか。土偶はまだまだいろいろなことを私たちに語りかけています。縄文人の顔立ちなどもそうです。この土偶のささやきの中から、もっとたくさんの縄文人たちの悩みや喜びを聞いてあげて下さい。あなたからの呼びかけに、土偶はきっと答えてくれるでしょう。

(駒形)

(長岡市立科学博物館報) No 53

昭和 63 年 3 月 31 日発行

編集・発行 長岡市立科学博物館（長岡市柳原町2番地1）

印 刷 所 あかつき印刷（長岡市新産4丁目4番7）